



直江外野手の事故

早稲田大学を卒業して五十年目を迎えた。去る十月二十三日、記念会堂が建て替え中のため、二十五年前と同じ大隈講堂でホームカミングデーの式典が行われた。終了後、商学部の新十一号館前でドイツ語選択のクラスの級友五人と再会し、夙食、さらに十五時過ぎには広告研究会の同期五人と大隈庭園前で落ち合い、丸一日母校での最後の旧交を温めた。

早稲田での四年間には、二年生の秋に東京オリンピックがあり、感動的な閉会式を国立競技場で味わうことができた。しかし、五十年以上経ても鮮明に思い出すのは、その東京オリンピックの開幕直前の一九六四年九月十九日に行われた、東京六大学野球の秋のリーグ戦の何の変哲もない早立戦であった。

この試合、直江輝昭外野手（米子東）は二回裏に私の座っているライト芝生席に先制ホームーを放った。先発の江尻亮投手（大洋W）は三回表で杉浦忠投手（立教—南海H）の持つ四五イーング連続無失点記録を更新したのである。

アクシデントは五回表に起きた。立教渡辺選手の右中間大飛球を背走した直江外野手は、一度はグラブにボールを入れながらコンクリートのフェンスに激突し倒れた。バッターランナーがホームベースを駆け抜け、江尻投手の無失点記録はここで途切れてしまった。

事故後、数日間は意識不明であった。実際は右ひじで腹部を強打し内臓破裂などで一時は絶望とまで宣告されたほどだった。そして一週間後に意識回復、六ヶ月の入院生活で徐々に体力も回復し翌年三月、直江外野手は卒業し内定先の住友金属に入り都市対抗野球に出場できるまでになっていた。

直江外野手の事故の翌年、神宮球場の外野フェンスの30センチ手前に金網のフェンスが張られた。このフェンスは、直江外野手の事故再発防止対策として採用された「直江フェンス」とまことしやかに呼ばれていた。

その事故から二年後、私も卒業し静岡の広告会社に就職し、さらに二年目の六年七月から六ヶ月間、研修のため大阪で生活していた。この年の夏の高校野球静岡県代表は静岡商業で、新浦壽夫投手（中退一読売G）の活躍で準優勝した。

その暑い夏の最中の八月四日に、あの直江外野手が、和歌山県の紀ノ川支流の丹生川で川遊びのおりに岩に激突死して

小西政司  
目を迎える

そのコラムによれば、神宮球場の事故を聞いて米子から慶應病院に駆け付けた直江外野手の父親、「長いこと野球をやつていて、慣れた神宮球場のフェンスがどこにあるのか分からなかつたというのでは、息子の気持ちにどこか緩みがあつたのではないか」との厳しい一言を、西氏は直接聞いていた。

大阪で激突死を知った私は、直江外野手の僅か二十五年の生涯に運命のいたずらを感じ、西氏のコラム記事を切り抜きその記憶と共に大切に保存していた。

幸い二十五年後に、紀ノ川の上流の奈良県五条市に行く機会があつたので、ついでに下流の橋本市の警察署に正確な事故現場を聞きに行つた。そして私はそこでいただいた地図を頼りにその水難事故の現場近くの岩場に降り立つて、改めて直江外野手の冥福を祈つたのである。

その後、最近のことであるが、新たな事実を知つた。それは、直江外野手が神宮球場での事故前の最終学年の夏休みにそれは住友金属に内定し東京オリンピックや神宮球場の秋のリーグ戦が始まる、まさに前途洋々とまた精神も高揚していたその時であるが、書き残していた手記があつたという。直江外野手の父親もこの手記の存在は葬儀の後に知つたようだ。曰く、「人はみな希望に充ちた幸せな時間が永久に続くことを願つが、実際は困難なことであろう」と。

【アール・イー・プランニング代表・67商】

スターの優秀な牝馬が引退し、繁殖牝馬となり一流の種牡馬に配合されました。が優れた子供を出すことなくだんだん歳を取つていきました。一九〇四年に当時の偉大な種牡馬、「アイジングクラース」に配合する為、その厩舎に向かって通りを歩いていました。その時シャルルールーというジニストレーーは生物学者でもあり、心理学者でもあったので両馬が愛し合っている事を理解し、「アイジングクラース」に払う300ギニーを捨てて恋愛結婚させました。その後両馬の間に産まれたシニヨリネットはダービーとオーケンズの両方で優勝する名馬になりました。

動物の遺伝子には異系な相手を見つけ出し、その相手と結婚したいと思う本能が組み込まれています。日本人女性が米欧の背の高くて彫りの深い顔の男性に憧れたり、彼らが日本人女性を美しいと愛らしいという表現で褒めるのもこの理屈です。日本人の男性がグラマーな金髪の欧米女性を美しいと感じたり、すごい美人の旦那さんが意外にもびざいくだつたりする事も同じです。

この話は息子さんや娘さんが連れてきた結婚相手に納得する為にお役に立つかどうかは判りませんが、競馬のG1レースの予想をする時には大変役に立つと思います。

何とか銀行系ベンチャーキャピタル国内首位のNED(株)に投資部員として就職した。をするに、私はゲーム業界の知識・人脈をプロ投資家のキャリアに交換した様なものである。そのNEDは世紀末を迎える。とはいえたが、吉川先生は再来年早稲田へ地域イノベーションの国際会議を招致すべく客員で残ると言い出すし、黒須先生も長年主催してきたワーカーデザイン研究会を法人化して残す準備を始めた。不肖の弟子として今暫く早稲田語でがんばらうのである。

さて、その大学院での恩師、吉川智教先生と黒須誠治先生が今3月末で定年を迎える。とはいえたが、吉川先生は再来年早稲田へ地域イノベーションの国際会議を招致すべく客員で残ると言い出すし、黒須先生も長年主催してきたワーカーデザイン研究会を法人化して残す準備を始めた。不肖の弟子として今暫く早稲田語でがんばらうのである。

## トレランレースの魅力

野口浩努

スマホで現在地を確認しようとするヘッドランプが画面に反射して見えない。「あれ？ そもそもこの地図はカラージャンかたつけ？」スタートから10時間経った夜11時、私はコース中央の三頭山付近にいました。少し前から目眩はしていたけれど、遂に色覚異常まで起きてしまった。こんな状態で本当に完走できるのか？

一昨年の秋、私は日本山岳耐トレーフに出場しました。国内トレランレースの草分けとして知られるこのレースは、奥多摩の山々をまたぎ、七一・五キロの距離と500メートル近い累積標高差を誇ります。富士登山三回分に、フルマラソンソノ一分を足した感じという印象が伝わるでしょうか。その規格外の大変さにも拘らず、毎回150名もの参加者が集まり、レース後の写真では皆、晴れ晴れとした笑顔を見せていました。この魅力度はなんだろう。フルマラソンを数回完走して気を良くしていく私は、その疑問に取りつかれ、気が付くと無謀にエントリーを済ませていたのでした。

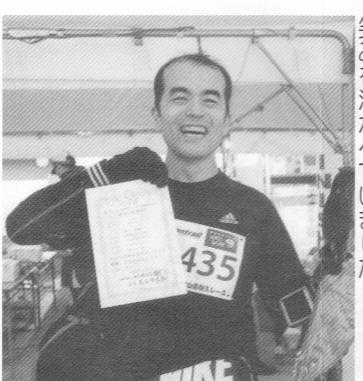
気楽なエントリーとは裏腹に、実際のレースはトラブル続きでした。色が分からなくなったり、持参した二つのライトの輝度差が大き過ぎたから。足がつり出したのは、電解質の補給が遅れたから膝が痛くて泣きそつなのは、まあ、我慢しましようか（笑）。

元々、山ではトラブルがつきものですが、夜間に長距離を行くこのレースではトラブルの数も桁違いです。次々に起きるトラブルを限られた手段で乗り越えていく。ひょっとすると冒険にも似たこの達成感こそ、トレランの魅力なのかも知れません。2時間近くをかけて満身創痍でゴールした時、気が付くと私も満面の笑みを浮かべていました。

完走し笑顔の野口さん

どの分野でも活躍している校友がいるのが早稲田の魅力の一つですが、実はこのレースの記録保持者も校友の上田瑠偉さんでした（なんと7時間1分。歴代2位より18分も早い！）。そんな大記録には及ぶべくもありませんが、これからも自分なりの「冒険」を楽しんでいきたいと思います。

【小島会計事務所・03理工研】



**NIKE**

応援部沿津演奏会レポート 青木代司

平成28年8月28日、沼津のプラザヴィルテ・コンベンションホールAにて、沼津・三島両稻門会による、早稲田大学応援部沿津演奏会が開催されました。

折からの台風10号の接近による天候の悪化が予想されたため、多くの方に中止場していただけたか気がかりでありましたが、千人を超える入場者があり、杞憂に終わりました。

吹奏楽部による華麗な演奏ののち、可憐な女子学生によるチャアリーティング、応援部若手によるコミカルなコントで前半終了。休憩の後、莊厳なる校旗入場のち、いよいよ真打ち登場。華山高校出身の鈴木崇正主将の堂々たるパフォーマンス、沼津東高出身の渡辺君による司会進行により、あっという間にフィナーレを迎えます。

華山出身・鈴木主将の勇姿

すべての演目が終了したあと、場内は暗転。鳴りやまぬ拍手の中、再び登場した鈴木主将により参加者全員による「紺碧の空」の合唱が告げられると場内の興奮は最高潮に達しました。

今回も来場いただいた多くの方が、田畠関係者以外のお客様でありました。場内総立ちで拳を挙げ、「紺碧の空」が歌われる様子を見て、「ああ、ワセダは本当に愛されているのだ」と確信しました。本年6月に、早稲田大学鎌田総長をお招きして「静岡県稻門祭」を三島駅北の「東山総合研修センター」にて開催することが決定しました。沼津演奏会の感動を再現させるため、ぜひ皆さまのご協力をお願い申し上げます。

PS. 演奏会の様子はyoutube ([https://www.youtube.com/watch?v=UWzJyfXQHgk](#)) ただけます。「早稲田大学沼津演奏会」で検索して下さい。DVDをに所望される方は、事務局までお問い合わせください。  
（鈴木設計工房・79理工）

会報「稻門三島」原稿募集中  
会員投稿ページに原稿をお寄せ下さい。  
（希望の会員の方は三島稻門会役員にお申し出下さい。（編集部のみ））

応援部沿津演奏会レポート 青木代司

平成28年8月28日、沼津のプラザヴィルテ・コンベンションホールAにて、沼津・三島両稻門会による、早稲田大学応援部沿津演奏会が開催されました。

折からの台風10号の接近による天候の悪化が予想されたため、多くの方に中止場していただけたか気がかりでありましたが、千人を超える入場者があり、杞憂に終わりました。

吹奏楽部による華麗な演奏ののち、可憐な女子学生によるチャアリーティング、応援部若手によるコミカルなコントで前半終了。休憩の後、莊厳なる校旗入場のち、いよいよ真打ち登場。華山高校出身の鈴木崇正主将の堂々たるパフォーマンス、沼津東高出身の渡辺君による司会進行により、あっという間にフィナーレを迎えます。

華山出身・鈴木主将の勇姿

すべての演目が終了したあと、場内は暗軒。鳴りやまぬ拍手の中、再び登場した鈴木主将により参加者全員による「紺碧の空」の合唱が告げられると場内の興奮は最高潮に達しました。

今回も来場いただいた多くの方が、田畠関係者以外のお客様でありました。場内総立ちで拳を挙げ、「紺碧の空」が歌われる様子を見て、「ああ、ワセダは本当に愛されているのだ」と確信しました。本年6月に、早稲田大学鎌田総長をお招きして「静岡県稻門祭」を三島駅北の「東山総合研修センター」にて開催することが決定しました。沼津演奏会の感動を再現させるため、ぜひ皆さまのご協力をお願い申し上げます。

PS. 演奏会の様子はyoutube ([https://www.youtube.com/watch?v=JLjwXWzDgkM](#)) ただけます。「早稲田大学沼津演奏会」で検索して下さい。DVDをに所望される方は、事務局までお問い合わせください。  
（鈴木設計工房・79理工）

会報「稻門三島」原稿募集中  
会員投稿ページに原稿をお寄せ下さい。  
（希望の会員の方は三島稻門会役員にお申し出下さい。（編集部のみ））